

# 「組織拡大標語」の募集と 機関紙等の表彰について



NO. 702  
発行  
10・7月30日  
国鉄労働組合  
新潟地方本部  
発行責任者  
関川 和彦  
編集責任者  
教 宣 部



国労東日本本部が「組織拡大標語」と機関紙などの募集をしています。  
締切りが迫っています。多くの組合員の皆さんからお願いします。

なりましたので、情報宣伝が重要になってきていると思います。  
**編集委員会の開催を**  
地方本部では、職場、支部で機関紙の発行を目指すため、機関紙講座を開催しました。各機関で教宣担当者は奮闘していると思います。  
機関紙を発行できる体制をどうしたらできるのか、地本教宣部と一緒に進めていきたいと考えています。

支部、分会では春闘期間や拡大行動などで機関紙が発行されていますか？今年、新潟、中越、直江津支部が統合され新潟県支部が新しく発足しました。広範囲の支部に

拡大標語についても、ぜひ地本へお寄せください。  
優れた作品は「第24回東日本本部定期大会」で表彰されます。

## 「1047名」R不採用問題・解決総決起新潟県集会—23年の支援に感謝をこめて—

- ◇呼びかけ人（あいうえお順・敬称略）
- 安達拓男（国鉄闘争支援新潟共闘会議代表）
  - 井口捨三郎（国鉄闘争支援魚沼共闘会議代表）
  - 金子 修（弁護士）
  - 小林義昭（新潟市議会議員）
  - 牧田正樹（国鉄闘争支援上越共闘会議代表）
  - 小山哲夫（新潟市議会議員）
  - 斎藤昭浩（柏崎地区労会議議長）
  - 斎藤 修（国鉄闘争支援佐渡共闘会議代表）
  - 杉崎雄喜（建交労新潟県本部執行委員長）
  - 関川和彦（国労新潟地方本部執行委員長）
  - 田崎正安（国鉄闘争支援三条共闘会議代表）
  - 谷 正比呂（とり戻そう国鉄・新潟地区連絡会代表）
  - 中村洋二郎（弁護士）
  - 長谷川浩徳（国鉄闘争支援長岡共闘会議代表）
  - 福地富士夫（国鉄闘争支援新津・小須戸地区共闘会議代表）
  - 宮下弘治（元新潟県評議長）
  - 室橋春季（新潟市議会議員）
  - 山崎栄三（建交労全国鉄道新潟地域本部執行委員長）
  - 吉田ひさみ(主婦)



## 第21回東日本 運転職場交流会

第21回東日本運転職場交流会が新潟で開催されます。昨年、十一月二十九、三十日に新潟運転協協議会は交流会を開催し多くの組合員が出席しました。今年は東日本運転職場の交流会が開催されます。  
十月二十五、二十六日、場所は今回も同じ、新潟市西区・メイワサンピアで開催されます。

日時 10月25日(月)～26日(火)  
13時30分～翌11時  
場所 メイワサンピア（新潟市西区）  
会費 10,500円

## 第20回新潟運転協定期委員会

日時 2011年3月11日(金)～12日(土)  
13時～翌9時 散会  
場所 メイワサンピア



# 新聞のつくりかた



## やさしい 分かりやすい文章

編集部以外の投稿記事や依頼原稿の中には難しい表現、分かりにくい用語・漢字の使用など、さまざま書き方のものがぎます。これを読者の立場から、やさしく分かりやすい文章に直すことも未入の重要な仕事です。

## 文章を統一する

文体には「です・ます調」と「ある調」の二つがあります。一つの文章の中にはこの二つが入り混じる



ことは、読みづらくなり、よくありません。二つの調は「です調」と「ある調」の二つを統一して採用するかは決めておく必要があります。そのため、違つて文体の文章がきたならば未入れのときに文体を直しておかなければなりません。

## 文章は了解を とって直せる

未入れの時、投稿記事や依頼原稿の内容をどこまで直せるかという問題があります。長いものを短くカットする場合でも、記事の前後を入れ換えたほうがよい場合でも、執筆者、投稿者の了解を取ることが原則です。勝手に削ったり、文脈を変えたり

することはよくありません。誤字、脱字、漢字をかな書きに直すことぐらいいは了解を取る必要はありません。



## 段落と句読点を はつきり

未入れ作業でさらに重要なことは段落（だんらく）といて、文章の区切りで、読みやすくするための行かえをすることです。読点（、）や句点（。）をしっかりとつける作業があります。行かえや句読点が少ないと、文章は長く感じ、息がつけられないように、読みづらい文章になってしまつてからです。

## 編集後記

季節は夏本番ですね。毎日猛暑並みの暑さが続いています。熱中症や脱水症に気を付けましょう。この前、脱水症きみになり大変でした。こまめに水分補給をしていたつもりでしたが、仕事が終わり自宅に帰ってからケイレンが、指、腕足と止まりませんでした。急いでスポーツドリンクを飲んでようやく止まりました。今年の暑さは特別ですね。

# 文集特集

## 山脈集推薦作品

堀 松白 選

S.L.を語れば尽きぬ猪口二つ	吉野 和夫	時々の手抜き料理に癒される	松尾 和香
見ぬ振りができぬ男のさして口	梶野 正二	年金で暮らし背伸びはしておれぬ	小西 雄々
煮こぼれた言葉に積木又崩れ	辻 敬子	出目金と睨めっこするワンカップ	山本 はじめ
駐禁の紙を貼られた霊柩車	木下 草風	昭和史を背負って改憲許せない	渡邊 正治
くたびれた辞書でいくさがまだ続く	花房 桃風	ガラス越し冬の科白が置いてある	辻 敬子
あるまじき事の多さに腹をたて	長沼 春雷	炎天の枕木に確かな誇り	田中 道博
酸欠の街で賛美歌が流れ	兼行 幸枝	舞い上がる火の粉女の執念か	平田 恵
老いの負が交代劇を書けと言う	舟山 智恵	怒らねば休耕田が寒くなる	野村 稲波
核廃絶さげふ田螺も泥の中	佐藤 岳俊	雑草に習って生きた今がある	宇野 幹雄
徒花が受胎の夢を持ちつつげ	稲葉 長生	切り札のスペアも持っている余裕	太田 健次郎